

NO! カジノ! 新たなステージへ ひとの不幸を踏み台にする“成長”はあり得ない

カジノを含む大阪IR誘致に対して、法定数をはるかに超える21万筆の署名をもとに住民投票条例制定の直接請求を行った「カジノの是非は府民が決める 住民投票をもとめる会」は、8月臨時府議会での条例案否決を受け、国も射程に入れた新たなステージへ進みます。

「もとめる会」は9月8日、今秋以降の活動方針を決めた。主に次の3点。立ち止まることなく、粘り強い運動の継続を呼びかけている。

① 9月30日に『カジノは日本のどこにもいらない! 東京大行動』を行う。目的は①大阪と長崎から提出されている IR・カジノの「区域整備計画」を認定審査中の国交省環境庁に対して認定断念を求めること、②横浜、和歌山、長崎などにも呼びかけて、全国的なカジノ反対の世論を作っていくこと — にある。

自費・手弁当の市民運動としては近年まれな、全国規模で千人近くの参加者をめざす。国会前集会、全会派国会議員や環境庁審査委員会への要請、海外メディアを含む記者会見、銀座へのデモなどを計画している。【参加者公募中 <https://vosaka.net/archives/5640>】

② 東京大行動を経て10月16日、「…住民投票をもとめる会」を「大阪夢洲カジノ計画の

撤回をもとめる会」と発展的に改組し、府議会が民意を封殺したなかでの“自主投票運動”として、国籍・年齢に関係なく地域の誰もが参加できる『大阪府民によるカジノの是非を問う住民投票(仮)』を実施する。

③ 以上のとりくみを通じ、来春の統一選挙に向けてカジノ問題の更なる焦点化、カジノ撤回の世論形成をすすめる。

認定断念要求 **団体個人** 賛同署名を早急に

府退教と単会は、多くの府民とともに住民投票条例制定を求める署名活動を府内各地で取り組んできた。

7月の単会代表者会議では、国への認定断念の要望活動を行う団体「No! 大阪 IR・カジノ」がすすめる『大阪 IR・カジノ計画』を認定しないための、国への要望」の賛同署名に取り組むことを確認した。現時点で府退教と5単会が署名を送り、他の単会も10月末締切りに向けた取り組みを求める。「No! 大阪 IR・カジノ」は個人の署名も求めている。詳細はこのQRコードから。



税金投入でバクチ場を造り、負ける人を引き込み、その不幸を踏み台に「大阪の成長」を作ろうという“博打思想”そのものが誤っている。府民の声をさらに広げ、高めよう。 [三村和男]



7月21日(木) 署名簿提出 大阪府庁舎前行動